日本ユマニチュード学会
学会だより
第3号 2020年6月

humanitude
人間らしさを尊重したケアを共に社会へ

ユマニチュードに関わる人で、メッセージをつないでいきます！

ユマニチュード メッセージ・リレー
Message Relay

杉本 智波 すぎもと ちなみ

社会医療法人雪の聖母会　聖マリア病院（福岡県）看護支援室 看護師長
看護師／ユマニチュードチーフインストラクター
日本ユマニチュード学会 学術研究委員長

杉本さんは急性期病院でユマニチュードに取り組む同志として、私にとって戦友のような存在です。そんな戦友と聖マリア病院で一緒に研修を始めた昨年 12 月。久留米の土地で、ケアに熱く涙もろい杉本さんに負けず劣らずの 11 人に出会い、私も胸が熱くなったのでした！（安藤夏子／日本ユマニチュード学会 教育育成委員長）

皆様こんにちは。杉本智波です。私は福岡県久留米市にある聖マリア病院で看護師として勤務しております。当院は病床数 1097 床の救急から在宅部門までを持つ地域医療支援病院で救急車搬入数は年間約1万台です。今回は当院での活動についてご紹介させていただきます。

私は看護支援室という部署で勤務しており、ユマニチュードインストラクターとして当院スタッフにユマニチュードの哲学と技術を伝え、実践をサポートすることを役割としています。しかし、多くの病床を抱える当院でこの役割を果たすためには仲間の存在は必須です。今回は、その 11 人の仲間をご紹介させていただきます。

この11人は手術室、集中治療室、一般病棟、ホスピスなど多様な部署から集まった仲間で、2020年1月に6日間の研修を終え「ユマニチュード実践者リーダー（以下リーダー）」となりました。この研修は、「ユマニチュードの哲学、技術を身に着け実践できその根拠を部署内に発信できる人材の育成」を目的としており、そのプログラムにはベッドサイド実習はもちろん、プレゼンテーションの練習を含む、結構ハードな内容です。しかし、一緒に過ごす中で11人は仲間になっていきました。

このプログラムは、学会だより第2号で登場した調布東山病院の安藤さんや本田美和子先生もサポートしてくれたのですが、九州を超えた実践者の繋がりができたと感じます。研修最終日は、様々な感情があふれ、皆が泣いてしまうという若干カオスな状態になってしまったことも素敵な思い出です。現在は、リーダーたちがそれぞれの病棟で「ケアを変えてみよう」といった発信や、「この患者さんはケアを強化しておかないといけないな」といった「気づき」をしてくれて、私へのコンサルテーションに繋いでくれたりしています。

ユマニチュードの実践には、「今までよかれと思ってやっていたケアを見直す」「患者さんの持っている力を決めつけない」という私たちの発想の転換が必要です。そのため、ユマニチュード実践者は孤独を感じてしまうこともあります。だからこそ、このような仲間が必要だと思います！

今後も仲間を増やし、ケアを通して患者さんへギフトを届けることができるよう皆で頑張っていきます。どうぞよろしくお願いします。

次回はユマニチュードで「認知症フレンドリーシティ」を目指し様々な取り組みを行う福岡から、メッセージをお届けします！

Japan Humanitude Association

「学会だより第３号」編集：安武澄夫（広報委員長）、本田美和子、日本ユマニチュード学会事務局

ユマニチュード
実践カード
3

見ることから始めてみよう

**わたしたちは普段から「見る」ことを通じて、
さまざまな感情や、他者との関係のあり方を伝えます。**

「水平な高さ」、「正面の位置」からの視線は、
平等や信頼の意味合いを伝えます。
まずは、相手の瞳を見ることから始めてみましょう。

日本ユマニチュード学会